

地域づくりの 現場から

全国協議会登録団体の紹介

NPO法人 八東川清流クラブ (鳥取県八頭町)

きれいな水の八東川を

みんなで守る活動

安全な水・豊かな魚・憩いの場

―河川の再生を目指して―



NPO法人八東川清流クラブ
理事長

● 矢部 博祥

八東川の再生を目指して

私たちの法人は、地域の課題である八東川の再生に向けて、①きれいで安全な水②魚や水生生物が豊かに生息できる環境③景観や憩いの場の確保、に貢献する活動を幅広い地域住民の参加を得て実施することを目的とします。

身近な河川の問題、とりわけごみなどによる汚染の要因は、「人」に起因するところが極めて大きいと言えます。このため、ごみ回収のクリーン作戦など直接的な環境保全活動のほか、大人から子どもまで住民への環境啓発を重要視して活動しています。主な活動をご紹介します。

○クリーンアップ大作戦(ごみ1・6ト) 環境美化と水質維持を図るため、河川敷のプラスチック類・ビン・カン・金属類等の土に還らないごみの回収作業を行っています。

当初は、当法人の単独主催で始めましたが、最近では、鳥取県及び流域の八頭町、若桜町並びに鳥取環境大学との5者による実行委員会を組織し、当法人が事務局を務めて事業を進めています。地域の諸団体や住民参加を得て参加者は300人を超え、回収ごみ量は総量約1・6トとなりました。今では、地域に欠かせ

団体プロフィール

設立=2003年4月
(法人化 2008年10月)
代表者=理事長=矢部 博祥
構成人数=正会員17人
(連絡先)
鳥取県八頭郡八頭町用呂1269
TEL 090-7132-7290
Email yabe@lime.ocn.ne.jp

水はすべての生き物の命の源

地球温暖化・環境汚染などの環境問題は、地球的規模で深刻な課題となつていきます。海洋ごみの7割は、私たちの身近な河川から流出したものであり、このごみの中は生態系への深刻な影響が懸念され

ています。水は、人間をはじめすべての生き物の命の源であり、川は、その通り道です。

私たちは、「きれいな水の八東川をみんなで守る」を合言葉に身近な河川の環境保全の活動に取り組んでいます。八東川は、鳥取県東部を流れて日本海に注ぐ千代川の支流で、河川延長約40^{km}、流域面積420^{km}平方^{km}、流域人口約2万人の一級河川です。

大きく変わった八東川

私たちの生活と密着した身近な八東川は、かつては、きれいな水や豊かな魚、安らぎの風景を恵んでくれました。近年、その河川敷は一面が葦などの雑草に覆われ、川面にさえ近づけなくなり、たくさんいた魚の数量・魚種とも激減しています。さ

らには、プラスチック・ビニールやビン・カン・金属など土に還らないごみが大量に流出し、景観を害するだけでなく、水質汚染・生態系への影響も懸念される状況でした。

団体の設立時は 4人でスタート

このような八東川の現状を何とかしなければと声を上げた中村顕前理事長を中心に、まずは同級生に呼びかけ勉強会を開催しました。そして2003年4月、わずか4人で任意団体八東川清流クラブを発足させました。その後、色々なジャンルの多彩な経験を積んだ人々の入会もあり、会員は次第に増えて22人となり、2008年10月にはNPO法人八東川清流クラブとして、新たなスタートを切りました。

ない行事です。

○河川の遊び場づくり・草刈り

景観保持と水辺の遊び場づくりのため、河川敷に生い茂った葎の草刈りを行っています。整備した河川敷は、当法人のイベント会場としても活用します。

○川面に轟く歓声・川遊びフェスタ

小学校児童を対象に遊びを通して川の環境に関心を持ってもらうためのイベント事業です。カヌー遊び・会員のサポートで作ったペットボトル筏での川下り・魚のつかみ取り・水中生き物さがしなどに興じる子どもたちから川面に歓声が轟きます。大人も含めて約200人も人が参加します。



八東川クリーンアップ大作戦（回収作業）



川遊びフェスタ in 八東川参加者



小学校への環境学習支援（原稿用）



水質・水生生物調査

○小学校への環境学習支援

八頭町内の小学校の総合学習または社会科授業等の時間に環境保護に関する出前授業を実施しています。水の大切さ・森の大切さ・川の生き物・川の魚の生息状況などの座学のほか、水質・水生生物の現地調査など、年間10回程度行っています。

○水質・水生生物調査

試薬による検査及び水生昆虫による水質調査のほか、水中カメラや水中ビデオカメラ、許可を得ての刺し網利用などにより、激減している魚の生息状況も調査しています。水質は、おおむね「きれい（水質階級Ⅰ）」をキープしていますが、子どもども時代である60年ほど前に比べて

魚種は約半分に、生息数は十分の一以下に減少していると考えられます。

メディアを活用した

啓発活動もフルに

原則として毎月発行している会報を公民館・図書館などに配布、ホームページで団体の活動内容などをPR、八頭町主催イベントや所属する千代川流域圏会議が主催する千代川フェスティバルへの出展、3年に1回程度シンポジウムを開催するなど一般住民への啓発活動に努めています。また、私たちの行っている事業すべてが啓発につながるの考えから町報・県広報紙・各種団体等の機関誌やテレビ、新聞といったマスコ

ミへのパブリシティを積極的にを行っています。活字媒体・電子媒体に取り上げられた回数は、法人化以来10年間で73回（地域情報誌などを含む）に上ります。

描いた将来ビジョンを
基に継続

会員の高齢化の不安もあります。が、既に策定している「中長期ビジョン」を指針として、「継続は力なり」を肝に銘じ、地域の皆様の協力をい

ただきながらさらに事業を進めていきたいと考えています。いつまでもきれいで安全な水、たくさんの魚、そこかしこで人々が憩う姿が見られる八東川を夢見ながら。